

(第1回) 中核人材育成に係るアンケート集計結果

消防本部名	現場編					
	小隊長に求める到達目標	Sub Goal	中隊長に求める到達目標	Sub Goal	育成及び教育の実践的な取り組み	
					小中隊長の育成	効果的な教育
A	1 小隊の管理及び指揮ができる	1 小隊の管理及び指揮ができるためには、 ・中隊長の命令を受け、隊員を指揮し活動にあたる。 ・災害の実態と活動状況等により自隊の任務を判断し、自己隊員の担当任務を決定する。 ・事前に隊員の行動を指示徹底し、状況に応じた判断に基づく具体的な指示命令をする。	1 迅速な災害の実態把握ができる	1 迅速な災害の実態把握ができるためには、 ・情報は緊急度、重要度を勘案して迅速に把握する。 ・活動方針の決定に重要な要素となる対象物の状況、災害状況、人命危険等の状況を緊急に把握する。	災害の規模に応じて、検討会を開催し奏功事例や課題などの共有に努めている。	事例研究会を開催し、特異な事例や検証結果などの情報交換を実施している。
	2 効率的な活動ができる	2 効率的な活動ができるためには、 ・現場における活動上の危険や要救助者への二次的危険要因を把握し、危険要因の排除等の措置を講ずるとともに隊員及び資機材を適正に活用する。 ・要救助者の関係者や活動に従事する関係機関と連絡を密にして、災害の実態を的確に把握し、隊員を指揮して効率的な活動を行う。	2 明確な活動方針の決定ができる	2 明確な活動方針の決定ができるためには、 ・社会的かつ経済的影響も考慮して、トータル被害の軽減を目標とした活動方針を明確に示す。 ・災害状況、進展予測、活動状況及び部隊の集結等について大局的に判断し、確固たる信念をもって決定する。		
B	1 常に高度な活動能力を維持できる。	1 常に高度な活動能力を維持できるためには、 ・卓越した活動技術を身に付けている。 ・自己研鑽により広範な知識を有している。 ・体力の増強に努めている。 ・日々の訓練を欠かさない。	1 部隊を統率できる。	1 部隊を統率できるためには、 ・部隊の特性や役割を理解している。 ・強力なリーダーシップがある。	・毎年、昇任した新任士長、司令補、司令に研修会を実施し意識や知識の向上に努めている。 ・新任救急小隊長研修も実施。	・2日間日勤とし小・中隊長としての意識や知識の向上に努めている。指揮訓練も実施。 ・4日間日勤とし小隊長としての意識や知識の向上に努めている。
	2 隊員の指導育成ができる	2 隊員の指導育成ができるためには、 ・隊員の性格や能力を把握する。 ・隊員と信頼関係を築いている。 ・知識、技能の向上	2 決心して命令できる。	2 決心して命令できるためには、 ・管内情勢を把握している。 ・活動環境を冷静に観察することができる。 ・迅速に適應する機敏性、柔軟性を備えている。 ・的確な説明力を身に付けている。 ・即断即決できる知識、技能を持っている。 ・組織力、説明力、想像力を身に付ける。		
C	1 消防小隊の最小単位である小隊を指揮し、消防活動を遂行できる指揮者であること。	1 消防小隊の最小単位である小隊を指揮し、消防活動を遂行できる指揮者であるためには、 ・警防規程、消防活動基準等に定める任務を遂行できること。	1 指揮本部長（大隊長）の命を受け、又は、自ら判断し小隊長以下を指揮して消防活動を適切かつ効果的に遂行すること。	1 指揮本部長（大隊長）の命を受け、又は、自ら判断し小隊長以下を指揮して消防活動を適切かつ効果的に遂行するためには、 ・警防規程、消防活動基準等に定める任務を遂行できること。 2 指揮本部長の代行者として、高度な判断、指揮統制ができること。	・定期的に消防小中隊を出場不能として訓練に専念させている。 ・年間に適宜回数で管理者による消防活動の効果確認を行っている。	・初級幹部研修（消防士長新任課程） ・初級幹部研修（消防司令補新任課程） ・特別消火中隊長特別研修 ・NBC災害指導者養成特別研修 ・特別救助隊長本部教養 ・消防活動検討会
	2 先着小隊長は、現場の状況から効果的な警防活動を行うために、上位者からの意図（自隊の任務）を理解し中隊長到着までの間、自隊並びに後着小隊の指揮をすることができる。	2 先着小隊長は、現場の状況から効果的な警防活動を行うために、上位者からの意図（自隊の任務）を理解し中隊長到着までの間、自隊並びに後着小隊の指揮をすることができるためには、 ・現場の状況判断ができる。 ・任務（人命検索・救助、情報収集、安全管理など）を状況に応じて指示できる。 ・隊員に対し、役割等を明確に指示することができる。 ・簡潔明瞭な無線運用ができる。 ・他隊と日頃から訓練ができています。	2 先着中隊長は、大隊長が到着までの間、災害の推移により、出動各隊を評価して、適切な最善策の検討により、部隊配置の指示、見直しを図り、具申を行うことができる。	2 先着中隊長は、大隊長が到着までの間、災害の推移により、出動各隊を評価して、適切な最善策の検討により、部隊配置の指示、見直しを図り、具申を行うことができるためには、 ・自隊及び配下にある部隊の活動を評価することができる。 ・評価に対し、現場の状況や活動部隊の活動を判断したうえで、勇気を持って活動の修正や方針を決定することができる。 ・状況に応じて組織的な活動を指示できる。 ・簡潔明瞭な無線運用ができる。		
D	1 現場の状況や部下隊員の能力を把握し、適時適切な活動を指示できる。	1 現場の状況や部下隊員の能力を把握し、適時適切な活動を指示できるためには、 ・隊員の性格や技量の確認を行い、それらを把握している。 ・活動時における危険要因等を予測若しくは早期段階で察知し、活動隊員へ周知徹底を図るとともに、適切な判断をすることができる。 ・有効な情報を収集する能力があり、時機を逸することなく報告することができる。	1 大隊長到着までの間、他隊と連携し局面指揮が執れ、担当任務を遂行できる。	1 大隊長到着までの間、他隊と連携し局面指揮が執れ、担当任務を遂行するためには、 ・優先すべき任務を理解し、現場を冷静に状況評価できる。 ・部隊の特性や役割を理解し、効果的な活動を行うための任務付与をすることができる。	・災害出動後は各隊により、現場活動の振り返りを実施している。 ・他署の災害を基に、想定訓練を実施している。	・災害の状況により、署内での災害活動検討会を開催し、その結果を各所属へ周知している。
	2 先着小隊長は、現場の状況から効果的な警防活動を行うために、上位者からの意図（自隊の任務）を理解し中隊長到着までの間、自隊並びに後着小隊の指揮をすることができる。	2 先着小隊長は、現場の状況から効果的な警防活動を行うために、上位者からの意図（自隊の任務）を理解し中隊長到着までの間、自隊並びに後着小隊の指揮をすることができるためには、 ・現場の状況判断ができる。 ・任務（人命検索・救助、情報収集、安全管理など）を状況に応じて指示できる。 ・隊員に対し、役割等を明確に指示することができる。 ・簡潔明瞭な無線運用ができる。 ・他隊と日頃から訓練ができています。	2 先着中隊長は、大隊長が到着までの間、災害の推移により、出動各隊を評価して、適切な最善策の検討により、部隊配置の指示、見直しを図り、具申を行うことができる。	2 先着中隊長は、大隊長が到着までの間、災害の推移により、出動各隊を評価して、適切な最善策の検討により、部隊配置の指示、見直しを図り、具申を行うことができるためには、 ・自隊及び配下にある部隊の活動を評価することができる。 ・評価に対し、現場の状況や活動部隊の活動を判断したうえで、勇気を持って活動の修正や方針を決定することができる。 ・状況に応じて組織的な活動を指示できる。 ・簡潔明瞭な無線運用ができる。		
E	1 現場指揮者の指揮下に入り、組織活動を的確に行える。	1 現場指揮者の指揮下に入り、組織活動を的確に行えるためには、 ・全体の消防活動と自隊の任務の関連を理解する。 ・現場指揮者への的確に指示を求めたり、報告ができる。	1 活動方針を決定する。	1 活動方針を決定することができるためには、 ・災害の実態把握ができる。 ・出動車両の特性や、積載資器材等を把握している。	・特に行ってない。	・小隊長研修、中隊長を対象とした指揮隊研修を実施している。
	2 自隊の隊員の活動状況等を把握する。	2 自隊の隊員の活動状況等を把握するためには、 ・自隊の活動方針を徹底させる。 ・活動危険の存在を把握し隊員に徹底させる。 ・隊員の活動要領を具体的に指示する。 ・隊員の技量等を把握している。	2 消防活動体制を確立する。	2 消防活動体制を確立することができるためには、 ・災害の推移を予測し二次出動の判断ができる。 ・部隊に対して的確な下命ができ、活動状況を把握している。		
F	1 組織活動ができる。	1 組織活動ができるためには、 ・災害現場における役割の理解、中隊長への的確な状況報告、中隊長との情報共有、活動方針に基づく的確な任務遂行、中隊長との信頼関係の構築	1 組織活動ができる。	1 組織活動ができるためには、 ・災害現場における役割の理解、統括指揮者に対する活動方針等について意見や助言、現場指揮所との情報共有及び活動調整、統括指揮者との信頼関係の構築	小・中隊長の育成については、消防大学校や消防学校における専科教育の他、経験や自己研鑽に任せているのが現状である。ただし、災害出動後、活動検証（振り返り）を出動隊員全員で行い、出動していない隊員に関しては、伝達研修を実施している。	小・中隊長の教育については、消防大学校や消防学校における専科教育に頼っているのが現状である。
	2 隊員の役割分担・活動指示ができる。	2 隊員の役割分担・活動指示ができるためには、 ・現場状況の把握、隊員の性格・技術・能力を把握、豊富な知識と経験、的確な伝達力、隊員との信頼関係の構築	2 救助部隊の部隊配置・活動指示ができる。	2 救助部隊の部隊配置・活動指示ができるためには、 ・現場状況の把握、各小隊の特性把握、豊富な知識と決断力、的確な伝達力、各小隊長等との信頼関係の構築		

(第1回) 中核人材育成に係るアンケート集計結果

項目	訓練編					
	小隊長に求める到達目標	Sub Goal	中隊長に求める到達目標	Sub Goal	育成及び教育の実践的な取組み	
					小中隊長の育成	効果的な教育
A	1 小隊管理及び指揮をすることができる。	1 小隊管理及び指揮をすることができるためには、 ・ 平素から担当する任務に応じて、消防活動に関する知識・技術の向上に努めるとともに隊員を教育訓練する。 ・ 隊員に対し資機材・装備の管理、適正な運用について教育する。 ・ 隊員個々の性格や能力を十分把握しておく。	1 訓練統括ができる。	1 訓練統括ができるためには、 ・ 隊員各自の意欲や自主創造性の助長、伸展に留意して、訓練目標を設定する。 ・ 指揮者は、各隊員の技能を確認し、適正な評価を行う。 ・ 相手の立場、責任を理解し、チームワークのとれた、活みなぎる組織を維持する。	隊長研修や昇任課程研修など、階層別研修を体系的に実施している。	教育指導マニュアルやOJTマニュアルを作成し、画一的な教育を行っている。
	2 安全管理をすることができる。	2 安全管理をすることができるためには、 ・ 活動環境、資機材の活用、隊員の行動等状況を的確に把握し、危険が予測されたときは、必要な措置を講ずる。	2 安全管理ができる。	2 安全管理ができるためには、 ・ 常に危険が存在、潜在していることを前提に、活動環境及び各隊の活動状況の掌握に努める。 ・ 総合的に状況の推移を判断し、隊員の安全を基本に戦術を下命し、常に活動環境の確実な把握に努める。		
B	1 目標を示し、訓練を実施することができる。	1 目標を示し、訓練を実施することができるためには、 ・ 隊員の技量に応じた明確な目標を設定できる。 ・ 小隊で目標をクリアできるよう指導する。 ・ 資器材の諸元性能を説明できる。 ・ 活動要領を熟知し展示することができる。	1 各小隊間の連携を強化し中隊の活動能力を高めることができる。	1 各小隊間の連携を強化し中隊の活動能力を高めることができるためには、 ・ 訓練目標を示し、中隊訓練を実施できる。 ・ 各小隊の活動能力を見極め有効活用できる。 ・ 小隊間の連携力を高めるための指導ができる。	・ 毎年、昇任した新任士長、司令補、司令に研修会を実施し意識や知識の向上に努めている。 ・ 所属ごとに各種研修や訓練を実施している。 ・ 独自の救助認定試験制度の実施している。	・ 独自に定めた「訓練指導要領」をベースとして、画一的な教育を行っている。 ・ 訓練実施時に各項目に評価者を配置し小・中隊長等にも指導している。 ・ 「救助認定試験制度」で筆記、実技試験及び面接を実施し合格者には認定証、ステッカー及びワッペンを貸与している。
	2 小隊の活動能力を高めることができる。	2 小隊の活動能力を高めることができるためには、 ・ 隊員個人の能力を高める指導ができる。 ・ 指導や教育の「コツ」や「ツボ」を備え指導力を高めている。 ・ 小隊内の信頼関係を高める。	2 指揮本部長（大隊長）の命を受け、又は、自ら判断し小隊長以下を指揮して消防活動を適切かつ効果的に遂行すること。	2 指揮本部長の代行者として、高度な判断、指揮統制ができること。		
C	1 消防小隊の最小単位である小隊を指揮し、消防活動を遂行できる指揮者であること。	1 消防小隊の最小単位である小隊を指揮し、消防活動を遂行できる指揮者であるためには、 ・ 警防規程、消防活動基準等に定める任務を遂行できること。	1 指揮本部長（大隊長）の命を受け、又は、自ら判断し小隊長以下を指揮して消防活動を適切かつ効果的に遂行すること。	1 指揮本部長（大隊長）の命を受け、又は、自ら判断し小隊長以下を指揮して消防活動を適切かつ効果的に遂行するためには、 ・ 警防規程、消防活動基準等に定める任務を遂行できること。 2 指揮本部長の代行者として、高度な判断、指揮統制ができること。 ・ 警防規程、消防活動基準等に定める任務を遂行できること。	・ 定期的な消防小中隊を出場不能として訓練に専念させている。 ・ 年間に適宜な回数で管理者による消防活動の効果確認を行っている。	・ 初級幹部研修（消防士長新任課程） ・ 初級幹部研修（消防司令補新任課程） ・ 特別消火中隊長特別研修 ・ NPO 災害指導者養成特別研修 ・ 特別救助隊長本部教育 ・ 消防活動検討会
	2 小隊の能力を把握し、各種災害に対応することができる。	2 小隊の能力を把握し、各種災害に対応することができるためには、 ・ 基本的活動を身に習けさせる。 ・ 継続した訓練を行う。 ・ 隊員個々の能力を向上させる。	2 指揮本部長の代行者として、高度な判断、指揮統制ができること。	2 指揮本部長の代行者として、高度な判断、指揮統制ができること。		
D	1 消防活動技術の錬磨、向上に努め、厳しさと温情をもって部下の指導育成ができる。	1 消防活動技術の錬磨、向上に努め、厳しさと温情をもって部下の指導育成ができるためには、 ・ 自分自身の能力を向上させる。 ・ 訓練環境を整える。 ・ 自隊の課題等を抽出したうえで、隊員個々の能力を把握し、能力に合わせた段階的な資質の向上を目的とした訓練を行う。 ・ 自らも訓練に参加し、やって見せる。 ・ コミュニケーション能力を身に付ける。 ・ 現場の経験談を交え、訓練意定を行う。	1 消防活動技術の錬磨、向上に努め、厳しさと温情をもって部下の指導育成ができる。	1 消防活動技術の錬磨、向上に努め、厳しさと温情をもって部下の指導育成ができるためには、 ・ レベルに合わせた段階的に訓練をする。 ・ 安全管理意識を構築させる。 ・ 訓練成果を評価し是正していく。	・ 小・中隊長に該当する職員を対象として、年に数回、指導研修を実施している。 ・ 消防学校等への各教育課程に職員を派遣している。 ・ 可動式訓練施設を導入、各隊の訓練月を指定し、訓練を実施している。 ・ 定期的な消防救助研修会の実施している。 ・ 特別高度救助隊や高度救助隊による特別救助隊等への指導している。 ・ 隣接する署所間での連携訓練を行い、隊長間で指導不足の箇所を補う。	・ 当局作成の消防救助訓練ノート及びスキルアップノート等を利用して、画一的な教育を行っている。 ・ 教育資料用のCD-Rを作成し、各隊の統一した知識の共有を図っている。 ・ 災害情報共有ファイルにより他隊の現場活動を参考にしている。 ・ 業務計画に基づき、月別訓練を実施している。
	2 小隊の能力を把握し、各種災害に対応することができる。	2 小隊の能力を把握し、各種災害に対応することができるためには、 ・ 基本的活動を身に習けさせる。 ・ 継続した訓練を行う。 ・ 隊員個々の能力を向上させる。	2 自署での課題を抽出し、訓練を企画立案することができる。	2 自署での課題を抽出し、訓練を企画立案することができるためには、 ・ 自署の課題を把握する。 ・ 説明能力を向上させる。		
E	1 訓練目的を明確にし、計画を立てることができる。	1 訓練目的を明確にし、計画を立てることができるためには、 ・ 参加隊員の技量を把握している。 ・ 訓練目的を参加者全員に浸透させる。	1 小隊長、部隊のレベルを把握し、技術等を向上させる。	1 小隊長、部隊のレベルを把握し、技術等を向上させるためには、 ・ 定期的な訓練を計画し実施する。 ・ 訓練後、小隊長、部隊へフィードバックができる。	・ 特に行っていない。	・ 特に行っていない。
	2 計画通り訓練を行うことができる。	2 計画通り訓練を行うことができるためには、 ・ 目的、訓練手順、使用資器材等を把握し、訓練前に説明ができる。 ・ 訓練内容の展示ができる。	2 小隊長、部隊のレベルを把握し、技術等を向上させる。	2 小隊長、部隊のレベルを把握し、技術等を向上させるためには、 ・ 定期的な訓練を計画し実施する。 ・ 訓練後、小隊長、部隊へフィードバックができる。		
F	1 指導者としての資質を備えている。	1 指導者としての資質を備えているためには、 ・ 熱意、実行力、研究心、向上心を持っている。 ・ 隊員に対して誠実であり、包容力を持っている。 ・ 隊員より知識・技術・体力・精神力を持っている。 ・ 隊員の性格・技術・能力を把握している。	1 総合的な訓練計画を策定することができる。	1 総合的な訓練計画を策定することができるためには、 ・ 基礎訓練、小隊訓練、中隊訓練、連携訓練など段階的な訓練計画 ・ 訓練の目的、方針が明確となった訓練計画 ・ 各小隊の特性、役割に応じた訓練計画 ・ 常に情報収集に努め、新しいことを取り入れる柔軟性を持っている。 ・ P D C A サイクルを意図した訓練計画	小・中隊長の育成については、消防大学校や消防学校における専科教育の他、経験や自己研鑽に任せているのが現状である。ただし、救助隊員の育成という観点から、次の事項を行っている。 ・ 小隊長以外の隊員（士長以下）に訓練を計画させることにより、計画内容のチェックを行い、隊員に指導・助言を与える環境を作ることにより、小・中隊長の育成にも繋げている。 ・ 小・中隊長育成ではないが、訓練内容を記録した動画を事前に全隊員へ配信することにより、共通認識をもって訓練が行えるような取組みや、自己チェック表を活用し、訓練の進捗を個人又は隊で確認できるようにしている。	消防大学校等の専科教育の受講に対しては、受講人数に限りがあることから、各小隊の受講者を平準化させ、受講者以外の隊員に対しては、伝達研修を実施することにより、各小隊の知識向上を図っている。 ・ 特殊災害に対しては、関係機関（自衛隊・海上保安部・警察・医療機関等）の協力を得て、研修や合同訓練を実施している。
	2 優れた指導技術を持っている。	2 優れた指導技術を持っているためには、 ・ 訓練の重要性・必要性を示す。 ・ 興味を持たせる・維持させる。 ・ 訓練の目標を明確にし、達成させる。 ・ 船と艇を使い分け、競争心を持たせる。 ・ 隊員の性格・能力に応じた指導、役割分担ができる。	2 訓練の進捗管理を行ない、指導者に対し必要な指導、助言ができる。	2 訓練の進捗管理を行ない、指導者に対し必要な指導、助言ができるためには、 ・ 訓練内容が目的に沿った訓練となっているか判断できる。 ・ 指導者等が作成した訓練内容の安全面について点検し指導・助言できる。 ・ 訓練結果から指導方針が正しかったか、成果があったか判断できる。		
F	3 訓練計画を立てることができる。	3 訓練計画を立てることができるためには、 ・ 訓練の目的が明確になっている。 ・ 小隊又は隊員の能力に見合った訓練となっている。 ・ 研究熱心であり、その結果を訓練に反映できる。 ・ 隊員の習熟度を図るチェック機能を取り入れている。 ・ P D C A サイクルを取り入れた訓練を計画できる。	3 小隊ごとの特徴を捉え、中隊としての災害対応能力向上を図ることができる。	3 小隊ごとの特徴を捉え、中隊としての災害対応能力向上を図ることができるためには、 ・ 小隊長へ教育指導する。 ・ 大隊長の活動方針を把握する。	・ 特に行っていない。	・ 特に行っていない。
	4 リスク管理ができる。	4 リスク管理ができるためには、 ・ 訓練前、訓練中に潜在する危険を予測、排除できる。 ・ 訓練隊員に対する注意喚起を徹底できる。 ・ 訓練の中止等を判断できる。 ・ 隊員の疲労度への配慮ができる。	4 リスク管理ができる。	4 リスク管理ができるためには、 ・ 訓練前、訓練中に潜在する危険を予測、排除できる。 ・ 訓練隊員に対する注意喚起を徹底できる。 ・ 訓練の中止等を判断できる。 ・ 隊員の疲労度への配慮ができる。		
F	5 訓練評価・分析ができる。	5 訓練評価・分析ができるためには、 ・ 訓練記録を残す。 ・ 隊員の習熟度が判定できるチェック機能を取り入れる。	5 訓練評価・分析ができる。	5 訓練評価・分析ができるためには、 ・ 訓練記録を残す。 ・ 隊員の習熟度が判定できるチェック機能を取り入れる。	・ 特に行っていない。	・ 特に行っていない。
	5 訓練評価・分析ができる。	5 訓練評価・分析ができるためには、 ・ 訓練記録を残す。 ・ 隊員の習熟度が判定できるチェック機能を取り入れる。	5 訓練評価・分析ができる。	5 訓練評価・分析ができるためには、 ・ 訓練記録を残す。 ・ 隊員の習熟度が判定できるチェック機能を取り入れる。		

(第1回) 中核人材育成に係るアンケート集計結果

消防本部名	育成、教育上における阻害要因	
	ハードスキル面	ソフトスキル面
A	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の経験やスキル、知識の差異 ○指導方法及び指導内容のばらつき 	<ul style="list-style-type: none"> ○モチベーションの低下 ○意識の欠如
B	<ul style="list-style-type: none"> ○教育・指導マニュアル等はあるが、指導者が熟知していない。 ○個々で経験が違う（統合前の消防本部によって違う）ため、指導方法等にばらつきがある。 ○各種業務があり、実施時間が合わない。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隔日勤務者の研修を日勤にして短期集中型で開催したいが、日勤にすると勤務人員不足になる。 ・ 研修に参加しない消極的な人を救い人材発掘に結び付けたいのですが参加者はいつもやる気のある同じメンバーとなる。 ・ 教育訓練をあまり実施できてない理由の一つに指導や評価できる職員の育成が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションが不足している。 ○意欲、探究心が感じられない。 ○目標を見つけられない。 ○職業意識や熱意が足りない。
C	<ul style="list-style-type: none"> ○阻害はないが、敢えて課題をあげると、理解度・習熟度の客観的な評価が難しいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○阻害はないが、敢えて課題をあげると、職員個々への体系的な○J Tをどのように確立していくかということ。
D	<ul style="list-style-type: none"> ○異動先で使う資機材が違う。 ○小隊長となる隊員が現場でのC A F S 消火の経験がないため、指導ができない。 ○基本または原則にこだわって、柔軟な対応が執れない。 ○指導時、個々の捉え方によっては、パワハラとなってしまう。 ○教育を受けたものからの伝達の場がない。 ○指導者によって、考えが違う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現場経験が少ないため、現場活動が想像できない。 ○マニュアルに依存している。 ○指示待ち隊員が多い。 ○現場経験の少ない隊員が小隊長クラスになっている。 ○高齢の部下への指導 ○事務業務過多 ○モチベーションの低下
E	<ul style="list-style-type: none"> ○指導マニュアルがないため、過去の経験を基に指導している。 ○担当者によって指導方法が違う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○若手職員の一部は指導されることに慣れていない。
F	<ul style="list-style-type: none"> ○当局の訓練場は、消防救助技術指導会に特化した訓練塔であるため、ブリーチングやショアリング等といった都市型搜索救助の訓練を実施する際、基本的な器具取扱訓練に限定され、隣接して住宅が建っているため騒音等の問題が生じている。 ○内規で示すべきマニュアルが部分的で、外部（教本）の指導マニュアル等を参考に、指導しているのが現状であり、指導者によって指導要領の統一性が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい知識、技術に取り組む傾向があり、救助に関する歴史などに関心が薄く、過去の救助技術や知識、救助体制などの変遷を理解した上で新しいことに取り組むことが必要である。 ○救助技術が高度化・複雑化になってきており、対応できない隊員も少なくない。当局では、これらの問題を解決するため、救助隊員候補者養成研修を昨年度創設し、救助隊員と一緒に訓練させることにより、救助隊員としての資質の見極めを行っている。